

2016



J・A・C

(第 37 号)

# 千葉支部だより



平成 28 年 12 発行

日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三

編集者 吉野 聰

事務局 〒283-0116

千葉県山武郡

九十九里町西野672-2

三木雄三方

T E L

E-Mail cib@jac.or.jp

## 山の日記念 「山岳映画鑑賞と千葉の山」

素晴らしい山岳映画に感動

市川市グリーンスタジオ 9月10日(土)

国民の祝日「山の日」、千葉支部では「伊予ヶ岳ハイキング」に続く記念行事の第二弾として9月10日「山岳映画鑑賞と千葉の山」というイベントを開催した。

場所は市川市立図書館内「グリーンスタジオ」。220人収容のホールがちょうど満席になる盛況。50年以上も活動を続ける「SES山岳映画サロン」の力作映画7本と、千葉支部のスライド上映2本のプログラム。



(千葉の山 御殿山からの伊予ヶ岳、富山)

山本哲夫さんの美しい音楽に彩られた千葉の山や谷のたたずまい、山口文嗣さんの房総半島分水嶺を踏破してきた興味あるスライドと解説。観客の皆さまは最後までシーンと集中して鑑賞してくれた。我々スタッフはじめ千葉支部の仲間も、素晴らしい山岳映画を見てともに感動した映画会であった。(香高真奈美)

## 千葉支部の固い「チーム力」が発揮され 大盛会の山岳映画祭

香高真奈美

### 山岳映画祭開催の小さな灯が点灯

はじめに「山の日記念」として、また千葉支部 10 周年記念事業として「山岳映画祭」を開催しようという小さな灯が点灯した。そして会場・日時が決定されるとそれに向けて灯の数がどんどん増えていく・・・。

山口文嗣リーダーがSES映画サロンの山口茂さんと打ち合せを重ねて、綿密かつ大胆に準備を進めていく。6月19日に同じ会場で行われた映画サロンの映画会にスタッフ何人かで見に行ったり、公民館で映画の下見会、また別の日にスライドの試写会を行う。当日動ける人が何人も手を挙げてくれてそれぞれの役割をこなしていった。

### 天気も晴、広報の効果もありホールも一杯

そしていよいよ9月10日土曜日。天気が晴なのでもう9割は成功したも同然!? 事前に案内のチラシをたくさん作って配ったり、広報紙や新聞にもお知らせを載せていただいた効果もあり、ホールはほぼ一杯になった。私の友人の親子、ご夫婦が6人も来てくれて、私も舞台から姿を見つけて本当に嬉しくなった。

来場者の人数については予想もつかなかったので、アンケート用紙に番号を振り、受付の方がしっかりと人数を把握してくれた。

また暑い中、会場への案内担当の方も笑顔で来場者をご案内してくれた。

### 見ごたえのある 映画に感動

映画はどれも見ごたえがあり、私は特に「冬山にあこがれて八ヶ岳」に感動した。

映画サロン会長の茂木実さんが80才近い年齢の時に製作されたもので、「このスポットからあんな映像を撮りたい、頂上に行くことが目的ではないのだ」



と、終了後の「とんでん」での親睦会にて話してくださいました。

会は心配していた終了時間の遅れもなく、お客様退場の後の片付けもスムーズに終わる。

### 反省会で大いに盛り上がる。

この後スタッフも本八幡まで鑑賞に来てくれた会員たちも一緒になって20人以上の人数で「反省会」その後「二次会」。地元の幹事さんが良い店を予約してくれてあって会は大いに盛り上がった。新入会員・会友だけでなく以前から支部に在籍しているもの同士でもお互い初対面に近いような人もいて、良い親睦会だったと思う。

山登りは一人ひとりだが、今回のイベントは千葉支部の固い「チーム力」が発揮され大盛會に終わったと思う。

当日上映された「SES山岳映画サロン」の映画7本が入ったDVDを香高が持っています。

見たい方はご連絡ください。

Tel 香高真奈美

## ヒガンバナの咲く巾着田から物見山へ

9月24日(土)

廣村恵美子

数日前からの予報では雨の確率60%でしたが、当日まっ赤な巨大トーテムポールの柱が出迎えてくれる高麗駅に着いた時は雲が多いものの晴れていました。

14名が揃った10時に出発、鹿台橋を越えると道のあちこちにヒガンバナが咲いていました。歩いていると少しずつ人が増えてきて、一枚写真を撮るのも通行の邪魔にならないよう気を使い、川の近くで撮りました。写真も撮れたしこれだけヒガンバナを見れ、充分かなと感じましたが、やはりせっかくなので来たのだからと入場券を買って中に入りました。



と少しづつ人が増えてきて、一枚写真を撮るのも通行の邪魔にならないよう気を使い、川の近くで撮りました。写真も撮れたしこれだけヒガンバナを見れ、充分

かなと感じましたが、やはりせっかくなので来たのだからと入場券を買って中に入りました。

中に入ると駅で貰ったガイドマップの表紙を飾っていた500万本の曼珠沙華の花がそっくり咲いていて

圧倒されました。たぶん今年一番の見頃の日に来られたのだと思うと嬉しくなりました。上流エリアのヒガンバナの茎は普通より太くしっかりしているので花も栄養を吸収でき綺麗なのだと感心しました。



(日和田山頂、今日は女坂からの登頂)

11時頃日和田山に向かいます。左は男坂で岩場のある急坂、右は緩やかな女坂、「今日は女性が多いので女坂から行きます」とリーダー。数日来の雨の為、足元の石がつるつるして滑りやすくなっていました。「木の根っこも足を乗せるとスルッと滑るので注意してね。」と先輩のアドバイスに助けられ、無事に到着。

12時物見山にて昼食。パラパラと雨が降り出したが、暫く行くとすぐに止んできた。北向地蔵は、往時流行した悪疫を防ぐ守護神として親しまれているそうです。

最後に五常の滝へ。普段は静かに水を落としている滝が、雨が続けていたため水量が多く、近くに下りると水しぶきが飛んで霧のシャワーを浴びたようで涼しく、歩いた疲れが吹きとびました。

今日は予定のコースをほとんど雨に降られることなく無事に歩くことが出来、素晴らしい自然の中で良き仲間に加えてもらい、とても充実した一日となりました。

参加者：山口文嗣、岩尾富士夫、三木雄三、高橋琢子、宇野圭子、國宗文、山田豊子、塩塚生二、新井好夫、鈴木操、羽藤美代子、船木元、小板橋志朗、廣村恵美子 (敬称略)

## 市川散歩

### 能美勝博

10月8日、土曜日の市川市は、50%雨の予報だった。雨のそば降る中、JR下総中山駅に17人が集合した。正午ちょうど、出発するや否や、大雨が降りだす。

最初の目的地である「中山法華経寺」の仁王門（赤門）で、講師兼ガイドを務めていただく小笠原さんが、雨音を打ち消すほどの大きな声で身振り手振りを交えながら、ユーモアたっぷりの解説を始めた。参道が船橋市と市川市に分断されていること、山門から続く多くの寺は法華経寺の末寺ではないことなど。昨年5月に実施した第2回市川散歩では見逃していた見どころや要所を、丁寧に解説してくれる。国指定重要文化財である祖師堂、五重塔を眺めた後、百日荒行で有名な大荒行堂に向かう。日蓮が命の恩人として大切に祀ったという鬼子母神では、「鬼」の字の説明。角が取れ、ムが人になったという興味深い話をしてくれる。ちょうど、このころ到着した吉野会員の念力か善行のおかげか、雨がピタリと止み青空がのぞくようになった。立正安国論のほか国宝、重要文化財を数多く保管する宝物殿（聖教殿）、寺の中で最古の歴史を持つ四足門などを見学の後、中山法華経寺を後にし、次の目的地である行徳に向かうこととした。

小笠原講師によると行徳のキーワードは3つ。徳川家康、塩田、大正6年の高潮である。まずは、家康ゆかりの徳願寺、塩田ゆかりの塩場寺（しょばでら）と呼ばれる法善寺など、敷地がさほど広くない寺が散在している。寺町と呼ばれるゆえんである。

参加者：三木雄三、新村貞男、山口文嗣、津田麗子、安間繁樹、上村紀子、吉野聡、高橋琢子、櫻田直克  
柳下忠義、香高真奈美、梶田義弘、大浦陽子、廣村恵美子、能美勝博、小川和敏  
講師・ガイド：小笠原永隆、永岡敏昭、（敬称略） 計18人



そして、様々な宗派の寺があることに気付く。行徳は漁師町、船着き場で、様々な地域から多くの人交流する町であったため、多くの宗派の寺が必要になったということである。そして、妙覚寺には、千葉県内唯一のキリシタン灯籠がひっそりと安置されていた。また、たまたま立ち寄った神社には、お祭りのため、大きな神輿が鎮座していた。行徳には、以前は多くの神輿屋があったそうだが、今は、中台神輿製作所1軒を残すのみとなった。寺町を離れ、旧江戸川に向かうと、航路の安全祈願のため建てられた高さ4メートル以上もある常夜灯がそびえていた。川面を眺め一服しながら江戸時代の行徳の興隆に思いを馳せる。

そして、いよいよ最後の目的地は、行徳駅前的人气店「彦酉」である。当店自慢の焼き鳥や唐揚げをつまみに各々ビールや日本酒をいただく。ここで、講師の小笠原さんが山岳会千葉支部に入会、会友となることを宣言し、それを皆で祝しながら市川散歩の夜は更けていった。

## 秋晴れの瑞牆山・金峰山

10月15日(土)～16日(日)

宮崎美智代

10月15.16日の瑞牆山・金峰山山行に参加。これが千葉支部の山行、2回目です。まだ不慣れの為(いつもの事ですが・・)登山計画書を見ながら前日ギリギリに準備。

一日目、千葉発6:38特急あずさにより蕪崎駅へ。駅から登山口のある瑞牆山荘までは、神山さんのお車で(お世話になります)。秋晴れの登山日とでパーキングは満車、道路まで車で一杯。少々手間取りながらも無事に駐車、10:45いよいよ登山開始です。白樺が茂る明るい斜面を登り始めるが、わりと急な坂で少々辛かった。林道を横切り、針葉樹の中の道を小一時間ほど登り、富士見小屋に到着。ここでテント設営(女性は小屋泊にしてもらいました)お昼を取って、今日の目的地の瑞牆山へ向かいます。木々の間から瑞牆山や大ヤスリ岩を見ながら、途中、桃太郎岩と呼ばれるまっ



詰め、14:40瑞牆山山頂に到着。秋晴れの山頂は展望が素晴らしく、八ヶ岳・南アルプスの雄大な姿が全て見えた。こんな日はずっと山頂にいたいと思うが、残念ですが明日の金峰山に期待し、富士見平小屋に下山。

二日目、翌朝、三田家特製のチーズリゾット(簡単で美味でした)を頂き、7:00金峰山へ出発。林の中を緩やかに登って行くと、途中、大日小屋辺りは冷え込んでいて足下には、霜柱が。更に長い登りが続き疲れが出始めた頃、周囲が開け瑞牆山や富士山が見え、疲れを飛ばしてくれた。ここからは稜線上に見える五丈岩を目指して歩きます。アップダウンを繰り返しやっと五丈岩に到着。そして10:40その先にある金峰山山頂登頂。素晴らしい景色の中でお昼と温かいコーヒーをいただきました。皆さんお疲れ様でした、そしてお世話になりました。またご一緒させて頂き色々教えてください。



二つに割れた大岩を過ぎ、はしごやクサリが連続する険しい登りに、ちょっと息切れが。でも登りが急な分どんどん高度が上がり、いつの間にか頭上に大ヤスリ岩が迫った。急斜面を30分程登り

参加者：山口文嗣(L)、神山良雄、山崎完治、三田博、三田芳江、宮崎美智代 (敬称略)

## 郡界尾根踏査の報告

第10回 平成28年11月5日(土)

コース：金東→花立峠→花立山→三郡山登り口→長狭街道安国寺バス停

今シーズン初めての郡界尾根である。好天に恵まれて会員・会友合わせて11名の他に今回は讀賣新聞の長原さんが取材に同行することになった。長野からははるばる小澤さんも駆けつけてくれた。いつも通り7:45の館山行で保田へ。保田中央からバスで金東まで行き、ここから歩き始める。安倉谷集落から花立峠へ上がり、ここから郡界尾根に取付く。急なヤセ尾根をひと登りで、分水嶺のときに吉永さんがザックを落とした219mのピークに着く。



左(北側)は富津市で、眼下に湊川上流の民家が見える。ピークの立木には5年前の分水嶺のときには無かった花立山という木のプレートが打ち付けてある。さらにアップダウンを繰り返して行くとピークには石の祠や、富士講のものと思われる巨大な石碑などが現れる。急な斜面を下ると、ようやく道が緩やかになり、やがて左から高山林道が合わさる。荒れた高山林道を東へ進むと直ぐに三郡山の登り口に着く。今回はここまでとし、北風原(ならいはら)へ向かう林道を下り、長狭街道の安国寺バス停に着いた。取材の記事は11月11日の讀賣新聞で琢子さんの雄姿とともに千葉県下一斉に紹介された。(山口 文嗣)

(右上写真) 急な尾根を登る  
(左下) 11月11日 讀賣新聞から

参加者：山口文嗣、岩尾富士夫、三木雄三、山崎完治、高橋琢子、高橋正彦、小澤けい子、廣村恵美子、鈴木操、三田博、三田芳江、長原敏夫(読売新聞) (敬称略)

自然保護委員会報告

「猿投の森の音楽会」 参加記

10月22日（土）

鈴木美代

JAC 東海の猿投の森づくりの会は、愛知県有林やまじの森、で 2004 年より、森づくり活動を展開している。ここの主要部分は、高尾の森づくりの会の活動地のような植林地ではなく、広葉樹を主体とする自然林であるが、瀬戸市の窯業による薪の需要のため、荒れていたものが再生された場所である。ここでの活動は、自然遷移によって常緑広葉樹のうっそうと暗い森になるのを、人が手を入れることで食い止め、多様性の大きい、人にとっても心地いい森を維持すること、と聞いた。

この森での音楽会、2009 年から行われていたらしい。噂は前から聞いていたが、参加は昨年からだ。森の中でオーケストラの生演奏を聴く。その後、猿投の森づくりの会の作業地も見学できる。希望なら猿投山頂上へのハイキングもある。森の再生のみならず、森と人間とのかかわりの再生を目指すものではないか、と感じていた。今後の千葉支部自然保護委員会の活動に何かヒントがあるのではないかと期待を持って臨んだのであった。

### 森に響く第九

受け付けは名鉄瀬戸線の終点、尾張瀬戸駅前です。7 時半から。貸し切りバスで森の入り口まで送ってもらい、そこから会場まではなだらかな林道を 30 分あまり。ここらには植林地もあって、そこでの作業状況も見ることができる。

会場はトイレ広場の少し奥、林道わきに小川が流れるあたりだ。川向うが客席。その辺の切株やら草っぱに適当に座る。オーケストラは林道と川の間。今年は第九なので、林道上に合唱隊が並ぶ。オーケストラは地元の東海学園交響楽団。中学生高校生のオケだ。合唱は父兄やらOBやらが担当。音楽は素人なので、評価は控えるが、学生



（森に響くアルプホルン）

オケと侮れない腕前なのは確かだ。

第一部前半は「アルプホルン名古屋」によるアルプホルンの演奏。のどかな音に癒される。その後は本命のオーケストラの生演奏。中高一貫の学園なので、大分おじさんチックなのから、初々しい中学生らしき少年まで、地元でも有数の進学校とあって、皆賢そうだ。演奏も迫力十分。森の中なので音が拡散してしまう、などと言っている人もいたが、なかなかどうして、合唱も含めてすばらしい響きだ。

### 森の観察会

音楽を堪能した後は、森の観察会に参加。東海支部員の方が案内役となって十人前後の班でまわった。関東ではとんと見かけないシロモジがいっぱい生えていて、独特の葉の形が懐かしかった。また、昔の穴窯や登り窯の後などもあり、瀬戸の自然と文化に浸る一日だった。しかし、結局楽しんだだけで、千葉支部の自然保護活動の今後については後日考察する、という結論になった。

## 念願の大朝日岳（1870メートル）と月山（1984メートル）

7月15日（金）～17日（日） 山本哲夫

### 1日目

古寺鉾泉登山口 6時58分 大朝日岳避難小屋  
13時5分

念願の東北の朝日岳、梅雨の真っ只中一瞬の好天を期待し計画。小屋に泊まり朝日岳の良さを楽しみたい。できたら西朝日まで足を延ばそう。下山後は古寺鉾泉泊り。

駐車場で千葉のグループが登山準備、我々も素早く準備し出発。すぐに古寺鉾泉、三田さんが明日の宿泊の予約をした。鉾泉裏からすぐに急登が始まる。尾根を辿るとヒメコマツが現れた。ヒメコマツを直接見たことがなかったので記録に残す。ヒメコマツは太く、何本か自生していたが直ぐブナの植生に変化していった。一服清水の水場から少し上ると分岐標高1100mに達した。下ってくる人数人に合う、小屋の管理人は寂しそうだったという。古寺山1501mの手前で三沢清水が休憩。小朝日の分岐から樹林帯のトラバースルートに入ると傘をさす。次第に雨脚が強くなり雨具を着込んだ。熊越しの小朝日側で急な花崗岩が鋭く谷に落ちていた。ダケカンバの尾根を辿ると待望のヒメサユリの群落。マクロレンズに交換し沢山撮影。ヒメサユリは淡いピンク色と濃い赤紫色に水滴が沢山付いていた。銀玉水で水を3リットル用意、増えた荷に堪えて最後の上りを越すと、やっと尾根に出、水玉で覆われたヒナウスユキソウの群落があった。

13時小屋に到着、時間がたっぷりあるので小宴会休憩後、霧の中、花の写真を撮りに。夕食は山口さんの得意なメニューで楽しんだ。

### 2日目

朝日岳小屋発7時05分、西朝日1814m 8時45分、朝日岳小屋着10時35分、下山開始10時50分、小朝日1647m 12時19分発、古寺山1501m 13時2分、



（大朝日岳山頂にて 千葉から遠かった）

日暮れ沢と古寺鉾泉分岐 13時52分、ヒメコマツ帯  
14時48分、古寺鉾泉670m 15時15分

朝日を期待し4時過ぎに小屋を飛び出し山頂へ。既に東の空が赤くなっていたので、時々撮っては、駆け上がった。4時30-50分頃朝日が見えた。6時前に小屋に戻り、急いで朝食、7時に小屋を出発、西朝日に向かった。中岳から穏やかな尾根を上ると最盛期の過ぎたヒメサユリ群落、池塘、ニッコウキスゲ群落、振り返るとデンと構えた大朝日岳。西朝日岳で、衣東岳方向はガスが切れるのを待ったが見えなかった。岩燕が二匹山頂を何度も周回していた。帰路、三田さんと山口さんは金玉水を見に。小屋で荷物をまとめ下山。ヒメサユリ群落で休憩。熊越から小朝日岳の上りが今回のルートで一番急だった。小朝日岳で小休憩、雨がポツポツとしてきたので急いで下る。ヒメコマツ植生の標高は860m。ヒメコマツは五葉松とも云い葉が五本に分かれ、盆栽で親しまれているという。千葉では高宕山に存在するという。これで千葉のヒメコマツを探す準備ができた。ヒメコマツとブナの合体の木を過ぎて尾根から斜面に入り、下るほどに古寺鉾泉の発電機と沢の

音が聞こえてきた。登山靴を洗って鉱泉に。鉱泉で汗を流した後、冷たいビールを飲んでも夕食までたっぷり時間があつた。ヒメサユリの時期は6月末から7月初めと鉱泉の主人がいう。その時は人も多いらしい。



(大朝日岳からの日の出  
見える山は小朝日岳)

月山 1984m 湯殿山口 7月17日(日)  
3日目 古寺鉱泉 7時発、湯殿山駐車場 8時18分、

同行 山口文嗣さん、三田博さん 記録 山本哲夫

歩行開始 8時36分、湯殿山神社参道入口 8時58分。  
尾根上の小屋到着 9時50分。姥ヶ岳分岐 11時3分。  
山頂 12時15分、湯殿山下降点 14時1分。駐車場 15時28分。千葉着 22時45分。

古寺鉱泉から湯殿山に。到着前雨が降り出し、土産物店で月山饅頭を昼食代わりに購入。大鳥居をくぐり、雨水が流れている舗装路を湯殿山神社参道入口に。雨の中を登る。幸い梯子が連続する場所で一時的に雨が止み両手を使えた。すぐに小屋に到着。これから登るかどうか協議するが雨具を着て姥ヶ岳まで行って見ることに。途中で自分より少し年令の高い白装束姿に出会い、さらに女子を交えてお参りの一団を待つ間に、三人とも頂上まで行く気持ちに変わった様子だった。姥ヶ岳分岐に到着、残雪も現れ、風も強く、山頂近くから風雨が強くなった。小屋に入り参拝用の500円を準備し、お祓いを受け山頂に。風雨が強くそのまま下山。姥ヶ岳分岐から雨が弱くなり。湯殿山への下りでは二度遅いグループの後に付き時間を要した。月山は31年ぶりでした。

## 夏の終わりの穂高縦走

8月27日(土)～29日(月) 三田博



私たち夫婦の“山の師匠”は副支部長の山口文嗣さんです。その師匠に、以前から北アルプスの難所歩きに「一緒に行って下さい」と盛んにお願いしていて、実現したのが今回の穂高です。言い出しっぺの私がリーダーになり、嫁と山口さん、山崎完治さんの4人での山行になりました。

大型の台風10号が日本に近づいていて、中止する

か迷いましたが、「雨の上高地観光で終わるかも知れないけど行くだけ行ってみよう」ということで深夜バスに乗りました。上高地に着いてもやっぱり雨で、カッパを着ての涸沢行きになりました。でも悪天候のおかげ！で8月の週末なのに涸沢ヒュッテはガラガラ、余裕の布団一人一枚です。翌朝起きると、うれしいことに雨予報が外れて晴れてきました。期待していなかっただけにテンション急上昇。しかし、前日から体調を崩した山崎さん残念ながらリタイヤ。快晴の涸沢カールをバックに4人で記念撮影して別れる事になりました。

ここからは3人、ヘルメットの紐を締めてまず北穂高へ。クサリ場や鉄梯子も人が少ないため渋滞知らず。急な岩場でグングン高度を上げると、さっきまでいた涸沢ヒュッテがあつという間に小さくなりました。北穂の北峰に着くと、ガスに隠れながらも槍ヶ岳が目の前、大キレットを歩いてくる人も見えます。

さて、今回はこれからが本番。北アルプス屈指の難路、北穂から涸沢岳、穂高岳山荘へ向かいます。急峻な岩場を必死に登ったり下ったり、クサリ場や梯子ではなるべく切れ落ちた崖下を見ないようにして、ペンキマークを追います。足下はまさに奈落の底、細心の注意が必要です。我々3人以外に人がほとんどいないので、落石の心配はなく多少気は楽。石を落とすのも落とされるのも御免です。最低コル

に着いて、難所はこれでクリアできたかと思いきや、続く涸沢岳の登りこそがクライマックスでした。ようやく涸沢岳の山頂に着いて穂高岳山荘の赤い屋根が真下に見えた時の安堵感と達成感と言ったら…。



穂高岳山荘も空いていて、布団一人一枚、食事も1回戦だけでした。しかし、夜になって雨と風が激しくなり、いよいよ台風が来たのかと心配して朝までよく眠れませんでした。朝食時にもどうするか悩みました。でも山口さんの「雨さえ止めば大丈夫」と一言を信じて出発しました。同宿だった韓国の団体さん達は既に強風の中、小屋前の壁を奥穂高岳に向かってぞろぞろ攀じ登って行きます。「よし俺たちも」



と気が湧いてきます。

奥穂の山頂に着く頃には、強い風がガスを吹き飛ばして、どんどん晴れてきました。小屋を出た時には周りは真っ白だけだったのに、ジャンダルムの雄姿、笠が岳から黒部五郎、薬師、鷲羽、槍、常念…北アの山々が見渡せて大感激です。山頂で一緒になった人と写真を撮り合ったり、景色を楽しんだ後は吊り尾根を歩きます。風も弱まり、岩場歩きに慣れてきたのか、三点支持のテンポも良く進みます。

でも、こういう時こそ慎重に、と自分に言い聞かせます。

紀美子平にザックを置いて前穂へ。平均斜度30度とかいう岩のジャングルジム、ようやく前穂山頂に着くと、これまで歩いてきたルートがすべて見渡せました。この後、長い重太郎新道を下り涸沢小屋に着いてようやく安堵、支部長に「無事下山」のメールを送信しました。

今回、北穂、奥穂、前穂と計画通り穂高の3つのピーク全て踏むことが出来ました。“師匠”ありがとうございました

## あの山に また登りたい

宮崎美智代

### こんにちは

このたび、千葉支部に入会させていただきました宮崎美智代です。

こちらに入会する事になったきっかけは、最近子育てが一段落し、自分の時間が長くとれるようになった事とそんな時間に昔登った山の景色を思い出し、また行ってみたいと思うようになったからです。でも登山を始めるには、知識もなく体力にも自信がありませんでした。なかなか行動できないでいた、そんなとき仕事先に、こちらに入会していた三田さんにお話を伺い、今の私にぴったりだと思い、早々に入会を決めました。初め日本山岳会とお聞きしたときは、経験の多い上級者ばかりではと考えていましたが、そうではなく色々なレベルの山行や登山の基礎から知識が得られるような講習もあり、経験の少ない私でも無理なく参加出来ま



した。

まだ、千葉支部の山行にはあまり参加していませんが、長く続けたいと思っています。また皆様のお話も伺いたいと思います。よろしくお願いたします。

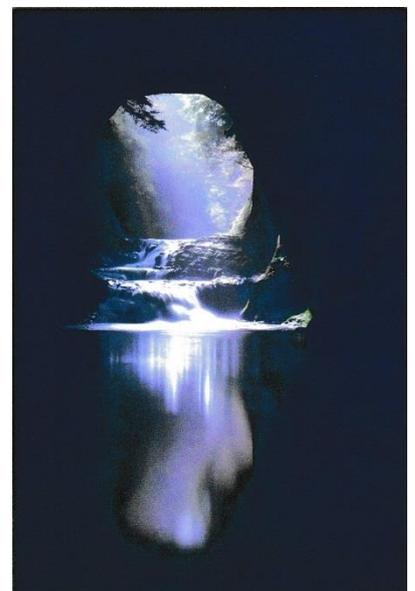
### 月あかりの射し込む「濃溝の滝」

月が地球に大接近した今年の11月、68年ぶりのスーパームーンが「濃溝の滝」を映し出す光景を会友の鈴木操さんが撮影しました。(11月15日(火))

鈴木さんたち君津市清水地区有志の人達が、歩道や周辺を整備して濃溝の滝の環境を守ってきた。

SNSで、“まるでジブリの世界”と紹介されるやたちまち大人気となり観光客が押し寄せている。

この濃溝の滝から2キロほど南の地点で鳴川有料道路が房総半島分水嶺や郡界尾根のコースを分断している。



千葉県内一等三角点探訪記 3

I 鋸山 (のこぎりやま) 標高 329.45m



鋸山三角点と  
菱形測線基点

鋸山一等三角点は観光客で賑う地獄のぞきから500m東のピークにある。以前は地獄のぞき付近から尾根通しに直接三角点峰へ通じる道があったが今は廃道になっている。現在は一旦日本寺の北口管理所から出て、石切り場跡へ下ってからでないと、三角点には行けない。それ故か三角点峰には観光客の訪れも稀で、静かな雰囲気を保っている。

内房線浜金谷駅より車力道登山道を登り、石切り場跡から北口管理所の方へは向かわず、東京湾を望む展望台方面へ進む。展望台から東へ20分で三角点が設置されているピークに着く。そばに菱形測線基点の八角形の大きな石柱がある。菱形測線基点は地表面の水平方向の変動を調べるために設置された測点4点で形成されている。全国に16ヶ所設置されている。千葉県にはこの鋸山と君津市人見、君津市小糸、富津市の大坪山を結ぶ菱形が形成されている。

三角点峰から東に林道金谷元名線までの尾根道も静かな縦走路である

三角点名	鋸山 (のこぎりやま)
山名	鋸山
設置場所	山頂
保存状態	良好。廻りをコンクリートで囲ってある。

(平成 26 年 11 月 29 日他訪問)

山口文嗣

II 大谷 (おおやつ) 標高 270.93m

大谷一等三角点は、小湊鉄道飯給駅と久留里線小櫃駅を結ぶ県道160号の南側の御所塚山の山頂にある。御所塚山は紀元671年壬申の乱に敗れた大友皇子(弘文天皇)が再起を図るために逃れた房総で御所を設けた場所、との伝説が残っている。周辺の飯給、小櫃、末吉、御腹川などの地名も大友皇子伝説から名付けられているという(詳細は平成23年12月発行千葉支部だより17号の拙文「房総の弘文天皇伝説」をご覧ください。日本山岳会HPの千葉支部サイトに掲載されています)。

飯給駅から小櫃駅へ向かう県道160号の途中の万田野から万田野林道を市原市民の森に向かい約1.2Km南下する。道が南西から南東に屈曲する地点で西側の尾根に取り付き、植林帯の中の赤テープを頼りに西に向かって約30分の国有林内にある。県道から眺めると御所塚山の北側、西側は山砂採取のため大きく削り取られている。植林



上面が赤ペンキで塗られている大谷三角点

地のため頂上からの展望はあまり良くない。

三角点名	大谷 (おおやつ)
山名	御所塚山
設置場所	山頂
保存状態	良好。石柱上面が赤いペンキで塗られている。

(平成 23 年 10 月 10 日他訪問)

## カムチャッカ アバチャ山登山

千葉支部創立 10 周年事業としてカムチャッカ アバチャ山登山を計画しました。会員・会友の皆さん奮ってご参加ください。 (日本山岳会千葉支部 山行委員 (海外担当) 坂上光恵)

東アジアのカムチャッカ半島は、世界有数の火山地帯であちこちに富士山型の火山が見られます。高緯度に位置するため、標高 1,000m を越える場所にも氷河が残り、海拔数 100m で高山植物が見られます。この登山では夏季限定で運行される東京／カムチャッカ間の直行特別便を利用してコンパクトな日程で登山とハイキングをおこない、ユネスコ世界遺産のカムチャッカの火山群の大自然を堪能します。挑戦するアバチャ山は、標高 2,741m の活火山で特別な技術は必要ありませんが、標高差約 1,900m を 1 日で登降する健脚向けの登山となります。日程 4 日目には、アバチャ山登山予備日を設けておりますが、前日、登山を順調におこなえた場合は、バチェカズェツ山麓を訪れフラワーハイキングを楽しみます。緯度が高いカムチャッカは、この時期、日が長く、夜は 23 時近くまで暗くなりません。自然そのままのカムチャッカで過ごす夏の山旅はきっと思い出深いものとなるでしょう。



期日 平成 28 年 7 月 21 日 (金) ~ 25 日 (火)

行程 (概要)

7 月 21 日 成田発

23 日 カムチャッカ半島アバチャ山登山

25 日 成田着

費用 278,000 円 (参加人数 20 名の場合)

288,000 円 (参加人数 15 名の場合)

その他 ・現地日本語ガイド及び現地登山ガイド同行

・12 本爪アイゼンやピッケルは必要としないが、軽アイゼンやストック持参が進められている。

・査証が必要なため出発 31 日前までに申請とそれ以降申請では取得費用に差が生ずる。

詳細問合せ及び申込先

坂上光恵

TEL

☒ 支部便りに

申し込みはメールで平成 29 年 1 月 31 日まで。

お知らせ

会員の動向(2016. 12. 1 現在)

- 新入会員      H.Mさん      白井市      会員番号 16003
- N.Tさん      千葉市      会員番号 16030
  
- 新入会友      O.Kさん      市川市
- H.Mさん      茂原市
- Y.Tさん      習志野市
- S.Yさん      大網白里市
- O.Nさん      佐倉市

「わたしのふるさと紹介」欄を新設します

『だれもが参加できる支部活動』をテーマに、千葉支部では山行、講演会などを通して会員・会友のコミュニケーションを図っています。山行以外でも地域のサテライトが中心となり、これまでも季節に合わせて「手賀沼一周散策」(我孫子)、「江戸川べりと市川散歩」(市川)、「佐原の大祭見学」(香取)などを企画、昨年は「敬老ハイキング」と銘打って軽登山を実施したところ好評を得ました。そこで広報編集委員会では『私のふるさと紹介』を支部行事に加え、「支部だより」に掲載していきます。

例えば、「近所に大きな富士塚があるけど…」とか「九十九里の砂浜を歩こう」等々、なんでもかまいません。「もう山歩きはしんどいな」という人でも、ハイキングで汗を流し、軽く一杯あれば、親睦がいつそう深まるのではないかと考えています。新タイトルは「わたしのふるさと紹介」。皆さんからの企画をお待ちしています。

第10回 四支部(千葉、茨城、栃木、群馬)懇談会のご案内

今年の四支部懇談会は群馬支部が主催して下記の要領で開催します。

多くの会員・会友の皆様の参加をお願いします。

記

期日      2017年2月18日(土)～19日(日)

会場      妙義グリーンホテル(宿泊)      富岡市妙義町菅原 2678      TEL0274-73-4111

山行      神成山(富岡アルプス)      群馬の隠れた低名山

観光      世界遺産富岡製糸場 外

2月18日   午後1時半受付開始、2時開会   講演会、6時半懇親会

2月19日   山行及び観光出発      午後2時解散予定

申込      12月25日(日)までに高橋琢子あて

TEL      ☒ 支部便りを参照

## 役員会の報告

**10月報告** 10月18日(火) 市川アイリンク (出席者 敬称略)

出席者 坂上、鈴木、高橋、三木、三田、山口、山崎、山田、山本、湯下 10名

- ・支部合同会議(9月11,12日)の報告 本部助成金 2500円/人⇒2000円/人 外
- ・新入会員、会友 5名
- ・第10回四支部懇談会(2月18,19日 群馬支部)
- ・山岳映画鑑賞会の開催報告
- ・山の日記念「親子登山」(12月11日) 富山下見報告
- ・10周年に向け半袖Tシャツ作成

**11月報告** 11月15日(火) 市川アイリンク

出席者 鈴木、高橋、三木、三田、山口、山崎、山田、山本、湯下、吉野 10名

- ・海外山行 カムチャッカ 7月21日(金)～25日(火)
- ・29年度事業計画 公益事業の検討  
郡界尾根、晴香園の引率登山、自然観察会(一般公募)、山の日関連親子登山、  
山の日行事(検討)

(なお、9月の役員会(9月20日)は台風の為中止となりました。)

### 広報委員会から支部だより原稿についてお願い

支部だより原稿作成にあたって、下記の点をご留意いただければ助かります。

1. 原則として1ページ1原稿とする。
2. 一つの原稿は800字程度。(1000字だと写真を複数枚入れるのが厳しくなります)
3. 字体は明朝体で、数字は必ず半角。(写真コメント等は除く)
4. 出来る限りワードA4に書いて、それを添付。
5. 写真は2～3枚(以上)。1枚は集合写真、その他スナップ写真等。  
高山植物、野鳥、名所等原稿の内容に沿ったもの大歓迎。そこにコメントや花の名前等の記述。
6. 写真に日付や時間を入れない。

#### (編集後記)

千葉支部も来年度は創立10周年を迎えることとなる。

先日、サテライトの四水会で新しい会員・会友の5人の方とお会いした。それぞれの方が山や自然に対して多彩な経験や知識をお持ちだった。このところ新しく会員や会友が増えてうれしい限りのことと思う。これらの方々を迎えることにより盛大な10周年と、次の10年への大きな礎となることは間違いないだろう。 (S. Y生)

# 山 行 の 予 定

(12月17日以降、支部行事等含)

行 き 先	日 程	申 込 先	締 切	備 考
陣馬山	12.17 (土)	湯下正子 支部だより参照	12.10(土)	公益事業 晴香園
忘年山行・房州アルプス	12.23 (金)	三田 博 支部だより参照	10.31 (月)	締切終了
郡界尾根第12回	12.24 (土)	三田 博 支部だより参照	10.31 (月)	締切終了
新年山行 嶺岡浅間・高鶴山	1.8 (日)	山口文嗣 支部だより参照	12.31 (土)	天狗面石祠の嶺岡浅間から天狗面の高鶴山へ
印旛沼を歩く	1.15 (日)	渡辺信一 支部だより参照	1.8(日)	双子公園からオランダ風車まで
三ツ峠	1.21 (土) ~ 1.22 (日)	山本哲夫 支部だより参照	1.14 (土)	冬の富士を撮影 要アイゼン
郡界尾根第13回 第14回 第15回	1.29 (日) 3.5 (日) 3.19 (日)	山口文嗣 支部だより参照	1.21 (土) 2.25 (土) 3.11 (土)	いよいよ房総分水嶺の中心元清澄山から内浦山県民の森へ
宝登山	2.11 (土)	山口文嗣 支部だより参照	2.4 (土)	ロウバイの咲く宝登山へ 晴香園も参加
八ヶ岳・硫黄岳	3.11 (土) ~ 3.12 (日)	三田 博 支部だより参照	2.25 (土)	赤岳鉱泉泊で硫黄岳へ。要アイゼン・ピッケル
みかもやま 三轟山	4.2 (日)	山口文嗣 支部だより参照	3.25 (土)	カタクリの花を求めて春の北関東へ

印刷

三陽メディア株式会社